

2023年12月期第3四半期 決算説明資料

2023年11月10日

日本ホスピスホールディングス株式会社

(証券コード：7061)



会社理念とビジネスモデル

日本は医療の目覚ましい進歩により長寿を実現しましたが、高齢者が安心して暮らせる社会の実現には至っておりません。

創業前に欧米を訪問し、高齢者が自分の人生を語り、生き生きと過ごす場所としてのホスピスを見て、これを日本でも実現したいと思いホスピス事業を立ち上げました。残された大切な時間を過ごしていただく場所として、誰もが安心できる本物のホスピス。創業して約10年、どうあるべきか？明確な答えは出せておらず、未だに試行錯誤の毎日です。

当社の軸は、創業時から変わらず「緩和ケアの質」にあります。ホスピスは質の高い「緩和ケア」（身体的な痛みや精神的な苦痛等を取り除くこと）の提供が必須であり、高度な医療知識やスキルが必要です。看護師なら誰でも提供できるような簡単なものではありません。質の高い緩和ケアサービスをご利用者に提供したい、その一心で、創業間もない頃から多くの人件費・教育研修費をかけてきた結果、創業から単月黒字化まで約6年もの年月を要しました。

それでも私達の考えるホスピスの実現に向けて走り続けてきた結果、業界を代表する看護師や、上位資格者である専門看護師や認定看護師が自然と集まる会社になり、今では、緩和ケアの質・量ともにホスピス業界では群を抜いているものと自負しております。

最近ではホスピス事業者が増え、単純に「医療保険が適用される入居者」を対象とした施設を「ホスピス」と呼ぶ声さえも聞こえており、この状況を大変危惧しております。質の高い緩和ケアを提供することは容易ではありません。当社では、がん患者一人当たりの医療従事者（施設で働いている看護師等）の人数を約1.3名と定めており、手厚い人員配置と思われるかもしれませんが、当社の考える緩和ケアを提供するためには必要な人数と考えております。

一人でも多くの方に緩和ケアを届けるための事業成長と、当社が軸に置いている「緩和ケアの質」。このバランスは簡単ではありませんが、「街がホスピスになる」、そんな社会を創りたいと思います。

日本ホスピスホールディングス株式会社
代表取締役社長 高橋 正



住みなれた街
住みなれた家

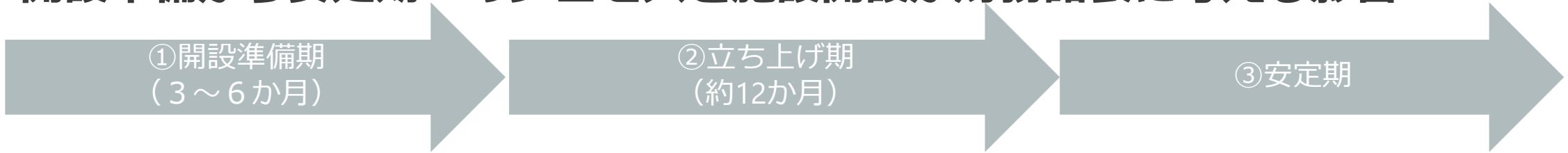
大事な人と
親しい人たちと
そして、一人でも

全ての人が
人生の最期の時まで
安心して、楽しく
暮らせる社会

「街がホスピスになる」

当社の描く未来です

開設準備から安定期へのプロセスと施設開設が財務諸表に与える影響



ホスピスチーム作り

- ・ 役職者（施設長等）決定、教育研修
- ・ スタッフの採用
- ・ 医療介護制度・コンプライアンス教育研修

入居者の受入の開始

- ・ 稼働率の段階的向上
- ・ 月次損益の黒字化
- ・ 地域ネットワークへの浸透

入居者数、稼働率の安定化

- ・ 累積損益の黒字化
- ・ 看取り数の増加
- ・ 地域からの信頼積み上げ

■ 月次売上高 ■ 累積利益



新規開設によるBSへの影響

【実質】 約30年間の賃貸借契約により毎月賃料を支払うのみ（開設時にCAPEX不要）

【形式】 リース会計に基づき、施設の見積建築コストを資産・負債に計上

資産（リース資産）	:	資産計上	(減価償却による減少)
負債（リース債務）	:	負債計上（リース資産と同額）	(賃料支払により減少)
損益	:	-（開設準備～）	+（単月黒字以降～）
自己資本	:	-（開設準備～）	+（累積でプラスに転換～）

2023年12月期 第3四半期 決算概要

1 業績及び新規開設とともに順調に進捗

▶ 売上高・利益額・利益率ともに、安定して進捗

売上高	7,221百万円	(前年同期：5,633百万円 前年比128.2%)
経常利益	838百万円	(前年同期：463百万円 前年比181.2%)
経常利益率	11.6%	(前年同期：8.2%)

2023年1Qは新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものの、コロナ影響は2023年12月期の計画に織り込み済みで（今年2月12日開示の決算説明資料P11に記載）、3Qまで順調に進捗
→ 売上・経常利益ともに計画どおり

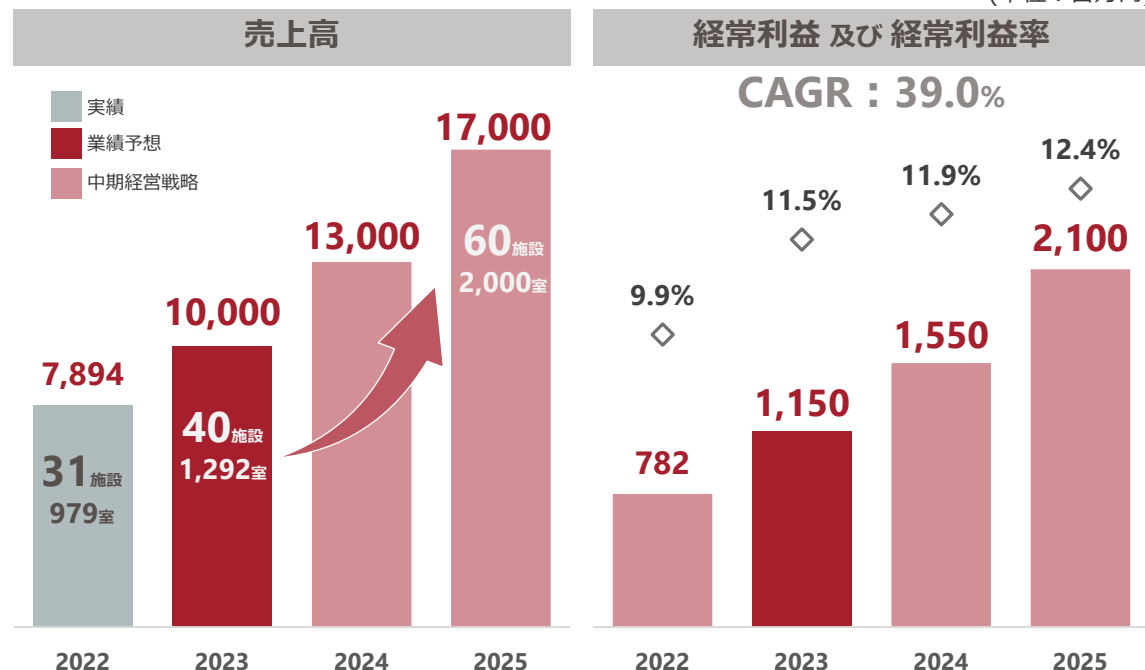
▶ 前年同期（2022年3Q）に立ち上げ過程にあった施設の稼働率が上がり施設利益が増加した事で、新規立ち上げ施設の開設準備費用や、単月黒字化する前の施設運営赤字を十分に回収
→ 経常利益が伸長

▶ 3Qまでの開設は5施設と計画どおり。10月に白石ハウスをオープンし、12月にはセンター南ハウス、杉並松庵ハウス（M&Aによる事業承継）、中島公園ハウスをオープン予定
→ 施設開設は計画どおり

売上高・利益額は、計画対比で順調に進捗

2 中期経営計画の実現に向けて

(単位：百万円)



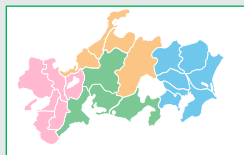
- ▶ ご利用者1人あたりの医療従事者数（≒1.3人）、看護師の約10%が上位グレード資格者（がん専門看護師等）という圧倒的な緩和ケア品質と、それを支える研修・教育の更なる充実
- ▶ スギHDとの提携により、緩和ケア品質の更なる向上を図るとともに、ネットワークを活用することにより展開を促進

緩和ケア「品質」を軸とした成長・拡大

2023年6月16日付で資本業務提携を締結。ホスピス事業の展開促進と緩和ケア品質の向上を目指す。

スギHDネットワークの活用により展開を促進

スギHDの店舗網



- 関西エリア 549店舗
- 北陸・信州エリア 68店舗
- 中部エリア 567店舗
- 関東エリア 445店舗

グループ合計 **1,629**店舗
(2023年9月末)



緩和ケア品質の更なる向上

- ・専門性の高い看護師に強みを持つ当社グループと、多数の薬剤師が在籍し専門性が高い訪問調剤に強みをもつスギHDとの協働により、実現が可能
- ・患者様体験を一気通貫でサポートする体制を構築することで、今後の市場拡大が期待されるスペシャリティ医薬品の応需体制を強化

スギHDの調剤に関する強み

- ◆ スギ薬局における調剤併設率は業界トップレベル
- ◆ 在宅医療への取り組みが進んでいる（訪問調剤対応）
- ◆ スペシャリティ医薬品への取り組み
- ◆ 専門薬剤師によるサポート体制

資本業務提携後、以下の目的ごとに2社合同の分科会を立ち上げ、それぞれ、毎週もしくは隔週ごとに実施

① ホスピスの認知度向上

将来の稼働向上

具体例

- スギ薬局調剤カウンターへのチラシ、ポスター設置
- 地域の急性期病院（主にガン末期・難病患者）に対する共同営業の実施と応需体制の検討
- 医療機関やケアマネジャーの相互紹介
- スギ薬局のアプリやスギ店舗のデジタルサイネージ等の活用を検討

② 施設の共同開発

事業成長の加速

進捗状況

- 中期計画に含まれていない施設候補(約10施設…開設時期は未定)の検討
- 中計計画に含まれている開設予定ハウス(約5施設)に、スギ調剤薬局の併設を検討
- 新たな医療連携モデル(ex.スギドラッグストアに隣接したホスピス施設等)の検討

③ 緩和ケアの品質向上

ご利用者の満足度向上

進捗状況

- 看護師及び薬剤師の連携強化による専門性強化
- 薬剤師による専門指導による最新の薬剤情報のアップデートやホスピス施設内における薬剤管理品質の向上
- スギ薬局のおもてなし便（お薬と一緒に日用品もお届けするサービス）の活用による入居者への物販サービスの充実

2023年12月期 第3四半期 連結業績実績

(単位：百万円)

	2021年12月期 第3四半期	2022年12月期 第3四半期	2023年12月期 第3四半期	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率 (%)
売上高	4,401	5,633	7,221	+1,588	+28.2
営業利益	400	591	1,071	+480	+81.2
経常利益	280	463	838	+375	+81.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	164	260	558	+298	+114.7
1株当たり 四半期純利益 (円)	20.67	32.48	69.53	—	—

※百万円未満を切り捨てて表示しています。

影響額
(百万円)

解 説

2022年12月期 第3四半期 経常利益

463

① 2022年3Q時点で、
既に安定稼働に至っていた施設の「貢献利益差額」

+42

既に安定稼働となっていた19施設
※貢献利益差額・・・2022年3Q vs 2023年3Q

② 2022年3Q時点で、
立上げ過程にあった施設の「貢献利益差額」

+543

立ち上げ過程にあった11施設
※貢献利益差額・・・2022年3Q vs 2023年3Q

③ 2022年4Qに、
新規開設した施設の「貢献利益差額」

▲45

2022年4Qに新規開設した1施設
※貢献利益差額・・・2022年3Q vs 2023年3Q

④ 2023年に新規開設した施設（=現在立上げ過程にある）の
「開設準備コスト&運営赤字額」

▲74

港南台ハウス、高井戸ハウス、鶴沼ハウス、大泉学園ハウス、片倉ハウスの5施設

⑤ 2023年4Q以降に新規開設する施設の「開設準備コスト」

▲15

白石ハウス、センター南ハウス、中島公園ハウス、杉並松庵ハウスの4施設

⑥ 本社・本部人件費の増加額

▲45

2022年1Qはノーザリー社の本社・本部人件費がゼロ（買収は2022年2Q）
事業規模の拡大に伴う人員増加
退職給付引当金の計上（2022年4Qから計上）

⑦ 採用費の増額

▲62

施設数増加に伴う採用費の増加

⑧ その他

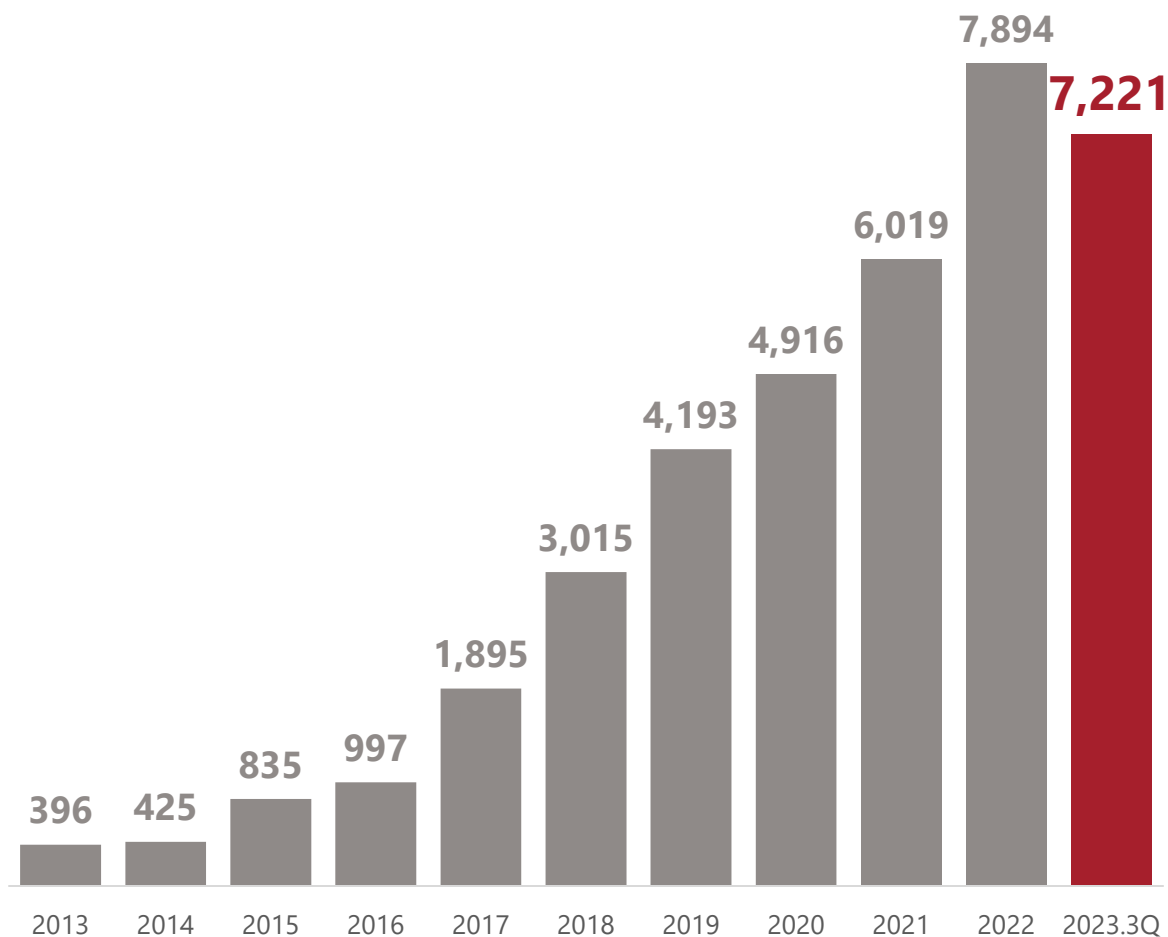
+32

2023年12月期 第3四半期 経常利益

838

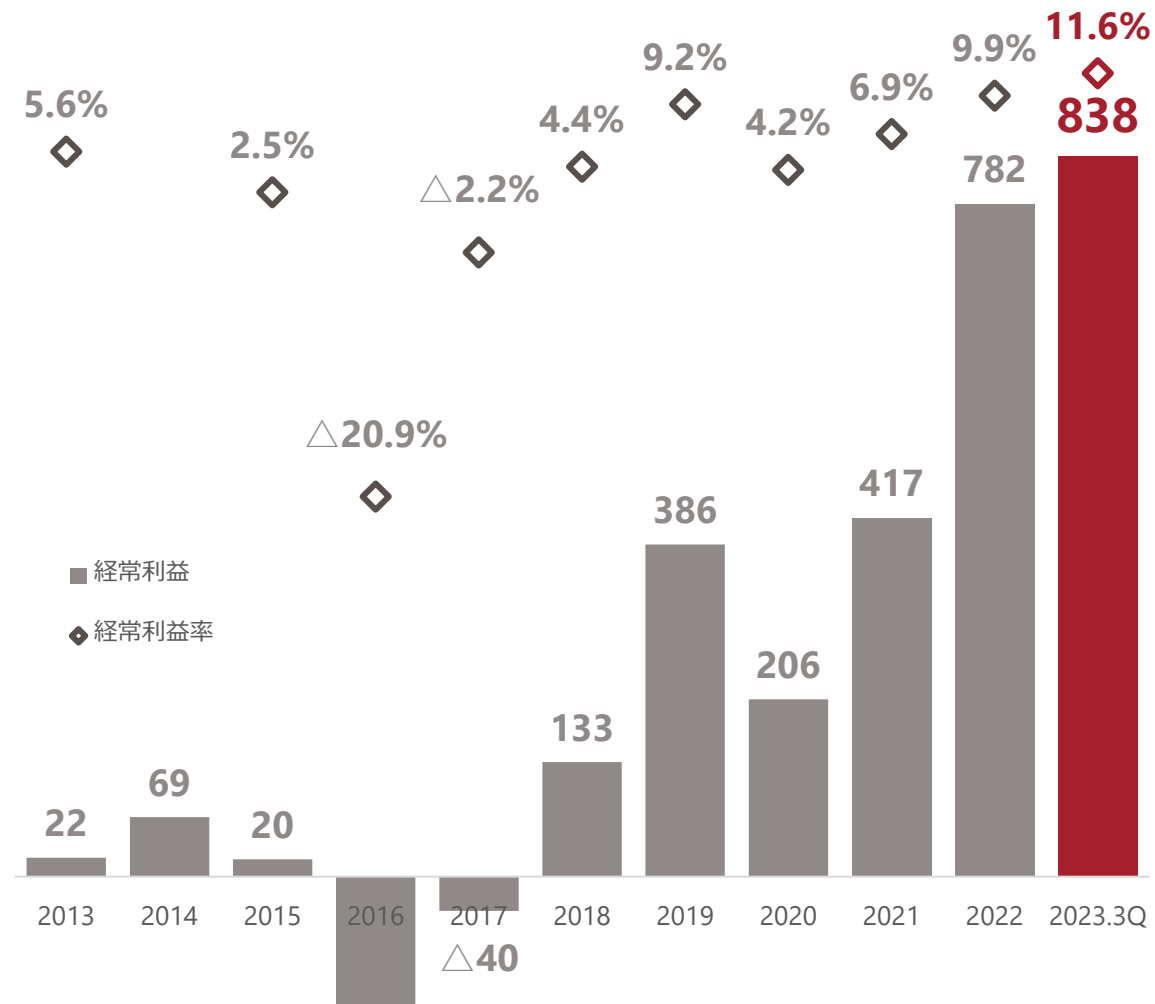
売上高の推移

(単位：百万円)



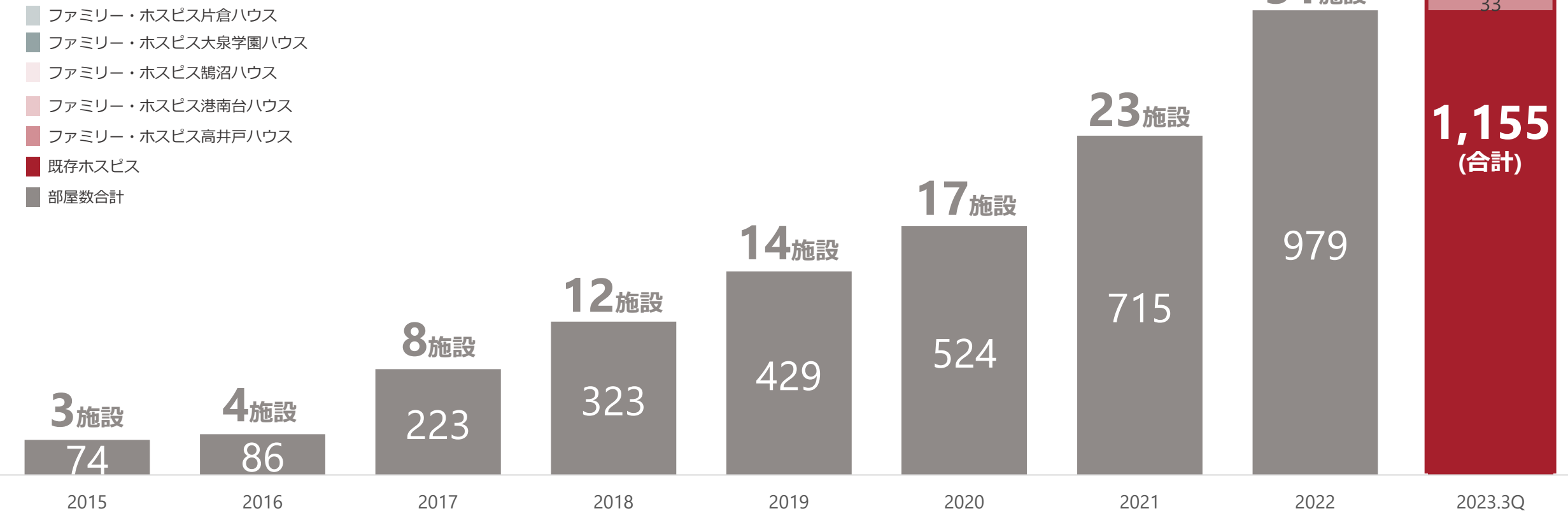
経常利益 及び 経常利益率の推移

(単位：百万円)



施設数・部屋数・平均入居率の推移

2023年12月期第3四半期は、2施設 / 77室を追加
ホスピス住宅は、合計36施設 / 1,155室に増加



【平均入居率※の推移】

※ 平均入居率 = 延べ入居室数 ÷ (提供可能室部屋数 × 日数)

※ 安定稼働施設 …… 当社の定義する満床=安定稼働の水準(85%)に到達し、かつ、その状態が安定している施設
 立上げ過程にある施設 …… 新規開設後、安定稼働に至る過程にある施設

安定稼働施設	:	88.0%	87.6%	87.1%	84.9%
立上げ過程にある施設	:	62.7%	60.9%	52.9%	51.1%

バランスシートの状況

(百万円)	2022年12月期	2023年12月期 第3四半期	増減額	増減の主な理由
流動資産	2,947	3,512	+564	
現預金等	1,509	1,873	+364	
売掛金	1,361	1,553	+192	
固定資産	8,503	10,822	+2,319	
建物及び構築物	1,857	1,822	△34	
リース資産	5,906	7,311	+1,405	新規ホスピス住宅の賃借開始にともなう増加
資産合計	11,450	14,334	+2,884	
流動負債	1,688	2,116	+427	
一年内返済予定の長期借入金	415	299	△115	
未払費用	489	532	+42	
固定負債	7,725	9,660	+1,935	
長期借入金	1,920	2,534	+613	固定資産の取得に係る借入による増加
リース債務	5,525	6,851	+1,326	新規ホスピス住宅の賃借開始にともなう増加
負債合計	9,414	11,776	+2,362	
純資産	2,036	2,558	+521	
(非支配株主持分)	(26)	(-)	(△26)	
負債・純資産合計	11,450	14,334	+2,884	
自己資本比率	17.5%	17.8%	—	

※百万円未満を切り捨てて表示しています。

2023年12月期の新規開設ホスピス

※2023年11月10日現在

年度	名称	所在地	2022年12月期				2023年12月期			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
2022年	ファミリー・ホスピス二俣川ハウス	横浜市旭区	33室							
	ファミリー・ホスピス平野ハウス	大阪市平野区	30室							
	ファミリー・ホスピス代田橋ハウス	東京都杉並区		26室						
	ナーシングホームOASIS天白野並	名古屋市天白区		32室						
	ノーザリーライフケア厚別西	札幌市厚別区		30室						
	ファミリー・ホスピス西台ハウス	東京都板橋区			29室					
	ファミリー・ホスピス豊中ハウス	大阪府豊中市			39室					
	ナーシングホームOASIS金山	名古屋市中区				45室				
部屋数合計			979室							
2023年	ファミリー・ホスピス高井戸ハウス	東京都杉並区					33室			
	ファミリー・ホスピス港南台ハウス	横浜市港南区					36室			
	ファミリー・ホスピス鶴沼ハウス	神奈川県藤沢市						30室		
	ファミリー・ホスピス大泉学園ハウス	東京都練馬区							36室	
	ファミリー・ホスピス片倉ハウス	東京都八王子市							41室	
	ファミリー・ホスピス白石ハウス	札幌市白石区								38室
	ファミリー・ホスピスセンター南ハウス	横浜市都筑区								33室
	ファミリー・ホスピス中島公園ハウス	札幌市中央区								36室
	ファミリー・ホスピス杉並松庵ハウス	東京都杉並区								30室
部屋数合計			1,292室							

会社概要

- 社名 : 日本ホスピスホールディングス株式会社
- 本店所在地 : 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 新東京ビル2F
- 代表者 : 代表取締役 高橋 正
- 資本金 : 372百万円 (2023年9月末日時点)
- グループ会社 : ファミリー・ホスピス株式会社 (東京都千代田区)

事業内容

ホスピス住宅事業



入居者を**末期がん患者**や**難病患者**等に限定したホスピス住宅にてケアサービスを提供しております。訪問看護と訪問介護事業所を併設又は近設しております。

訪問看護事業



看護師による訪問看護サービスを提供しています。在宅医と協力して、利用者やその家族の希望に沿い、安心して「おうち」で暮らし続けられる支援をしています。

在宅介護事業



訪問看護と併設することで医療的ケアに対応し、「通い」「泊り」「訪問」の3つのサービスを組み合わせた包括的なケアを特長とするサービスを提供しております。

【北海道】

ノーザリーライフケア厚別西
ファミリー・ホスピス白石ハウス
ファミリー・ホスピス中島公園ハウス※

【神奈川】

ファミリー・ホスピス鴨宮ハウス
ファミリー・ホスピス本郷台ハウス
ファミリー・ホスピス四ノ宮ハウス
ファミリー・ホスピス東林間ハウス
ファミリー・ホスピス茅ヶ崎ハウス
ファミリー・ホスピス江田ハウス
ファミリー・ホスピス大口ハウス
ファミリー・ホスピス本牧ハウス
ファミリー・ホスピス二俣川ハウス
ファミリー・ホスピス港南台ハウス
ファミリー・ホスピス鶴沼ハウス
ファミリー・ホスピスセンター南ハウス※
ファミリー・ホスピスたまブラザーハウス※

【愛知】

ナーシングホームJAPAN
ナーシングホームOASIS
ナーシングホームOASIS南
ナーシングホームOASIS北
ナーシングホームOASIS志賀公園
ナーシングホームOASIS知立
ナーシングホームOASIS藤が丘
ナーシングホームOASIS天白野並
ナーシングホームOASIS金山

【京都】

ファミリー・ホスピス京都北山ハウス

【大阪】

ファミリー・ホスピス平野ハウス
ファミリー・ホスピス豊中ハウス

【兵庫】

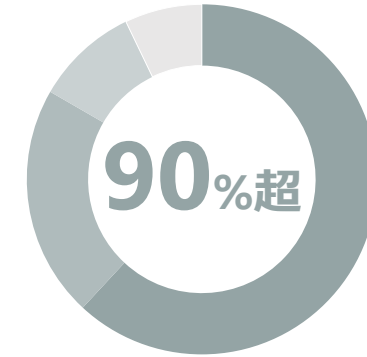
ファミリー・ホスピス神戸垂水ハウス

【東京】

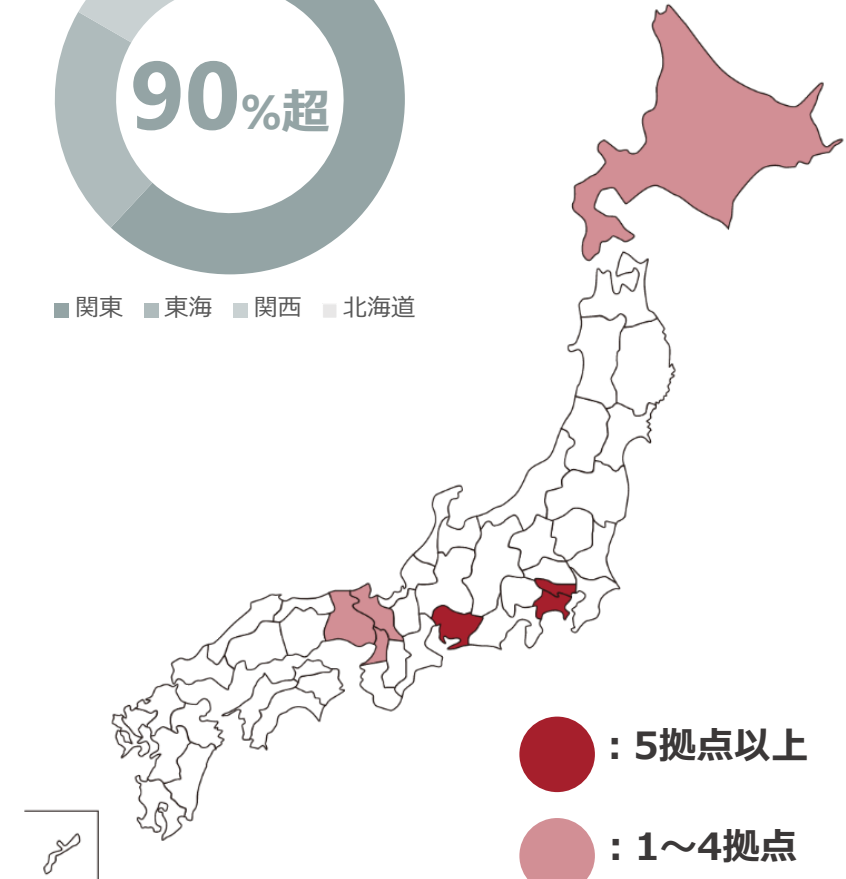
ファミリー・ホスピスライブクロス
ファミリー・ホスピス成瀬ハウス
ファミリー・ホスピス池上ハウス
ファミリー・ホスピス二子玉川ハウス
ファミリー・ホスピス成城ハウス
ファミリー・ホスピス荒川ハウス
ファミリー・ホスピス代田橋ハウス
ファミリー・ホスピス西台ハウス
ファミリー・ホスピス高井戸ハウス
ファミリー・ホスピス大泉学園ハウス
ファミリー・ホスピス片倉ハウス
ファミリー・ホスピス杉並松庵ハウス※
ファミリー・ホスピス国立ハウス※

※今後OPEN予定のホスピス住宅

三大都市圏への施設展開比率



■ 関東 ■ 東海 ■ 関西 ■ 北海道



● : 5拠点以上
● : 1~4拠点

合計 : 42施設 1,360室

(2023年11月10日時点、OPEN予定を含む)

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

<お問い合わせ先>
日本ホスピスホールディングス株式会社

電話 : 03-6368-4154

メール : ir@jhospice.co.jp